

もっと知りたい 福生の歴史（3）

福生市のことをより知ってもらえるように、テーマをしぼって取り上げています。

福生の渡船場

多摩川で見られた渡船場

現在のような橋をかける技術ができるより前は、多摩川を渡るために渡し船が利用されていました。水量の少ない時期に木の橋を架けることもありましたが、大雨の時などに橋が流されてしまうことがあったため、常設の橋はかけられませんでした。

現在の福生市内には3カ所の渡し場が存在しました。上流側から福生の渡し、牛浜の渡し、熊川の渡しです。



昭和初期の福生市内多摩川周辺の様子。多摩川には渡し場も見られる。

「口承文芸地図 昭和初期の福生村・熊川村」(『福生市史資料編 民俗下』1991より一部抜粋)

福生の渡し

福生の渡しは現在の永田橋付近にあった渡し場です。渡し場を通る道は、対岸のあきる野市草花を経て、平井川沿いの村々へ通じていました。

昭和初期までは、福生側の道は田村酒造や宿橋通りにつながる道しかなく、この道が旧福生村の中心となる道路でした。

現在の永田橋は、平成23年(2011)に架け替えられたものです。



福生の渡しに架けられた木橋 (昭和初期)

もっと知りたい 福生の歴史（3）

福生市のことをより知ってもらえるように、テーマをしぼって取り上げています。

牛浜の渡し

牛浜の渡しは、現在の福生第七小学校付近にあった渡しで、五日市街道の福生側とあきる野側をつないでいました。

牛浜を通る五日市街道は、江戸時代以来福生村と熊川村の村境でしたが、五日市街道が五日市と江戸を結ぶ重要な街道であったため、通りを挟んで集落が形成されていました。

これは渡しを待つ間に時間をつぶすための茶屋や、食事処が必要であったほか、大雨が降ると川が増水し渡しが出なくなってしまうことがあるため、そういった時に泊まる宿などが必要となることから集落が形成されていったものと考えられます。

大正14年（1925）には、多摩橋と五日市鉄道が完成し、渡しの役目を終えました。多摩橋は当時の渡し場より上流に架かっていて、現在の橋は昭和45年（1970）に完成したものです。



牛浜の渡し（大正11年8月）

熊川の渡し

熊川の渡しは現在の睦橋付近にあった渡し場です。渡し場を通る道は、対岸のあきる野市小川を経て、秋川沿いに伊奈や五日市、檜原へと通じていました。

江戸時代中頃までは、秋川流域では五日市の手前の伊奈に市が置かれていたため、伊奈へ続く道を伊奈道と呼んでいました。熊川の渡しの熊川側にも伊奈道と呼ばれる道がありました。

千手院と南公園の間の崖の上に伊奈道はありましたが、洪水による崖崩れによって、集落ともども伊奈道も失われてしまいました。その後、この集落の人々は牛浜集落へ移転したと言われています。

現在の睦橋は、昭和57年（1982）に完成したものです。



渡し船の奥には木橋も確認できる。
（昭和4～5年頃 熊川の渡し）